

增補
元三大師御籤繪鈔
全

逍遙文庫

文庫 6

249



此より下本は右判形を揃へ改め人々うごひの
なきやうに志し所電のいふき指すごとく大師の
縁起とありりくありりくありりくありり

増補 元三大師御籤繪鈔



江戸中橋廣小路町 西宮彌兵衛板



元三大師ハ御本地中よいん観音
中くは御其御圖をとる人ハ一心ハ
此死をとりあふるべし又つひ此死を
とる信をれば無量の罪をとり
とるの悪りといふん
万望成就するなり
如意輪観音咒
うん せら せら せら せら
うん せら せら せら せら
うん せら せら せら せら
うん せら せら せら せら

百籤序

抑此百籤と申奉るは王城の鎮守比叡山の根本
 中堂に立せ給ふ傳教大師第三の僧正慈惠大師
 永觀三年正月三日に寂せざるを故に元三大師と唱
 奉る自御鏡を取りを給ひ御貞を御覽有る御姿常
 なりざりしに邪魅魍魎を辟給ふと誓給ひ御座とあり
 則此百籤ハ震旦國天竺寺より出るなり蒙竊以七千
 餘軸之中に觀音薩埵無量利益不可勝計也經曰
 十方諸國土無刹不現身月の衆水に印するが如く
 春の萬國に行ふ似たり衆人合掌而求所を請則

吉凶を決むること響の音に應むるが如く百發百中
 嗚呼無邊の大慈大悲深哉々可崇玄妙不可思
 儀庶幾籤を尚者異をあらざるを奇に誇ること
 莫あはくのもの

此占者法華普門品三卷讀誦一正觀音千手十
 一面等の真言各三百三十三返禮拜三十三度一然後
 可取者也尤能其身を清淨より能其身と心とと
 一つふし誠の意をたこし疑をかこすやどき者へ
 右吉凶を決む者上の五言四句の文を以て明鑒と志し和解ハ
 凡慮の言なるとバ強く拘るべからず



正觀自在王菩薩咒
唵 阿 囉 訶 囉 訶 囉
唵 吽 吽 吽 吽 吽



千手千眼大菩薩咒
唵 嘛 呢 叭 彌 吽
唵 嚩 囉 嚩 囉 嚩 囉 嚩 囉 嚩 囉

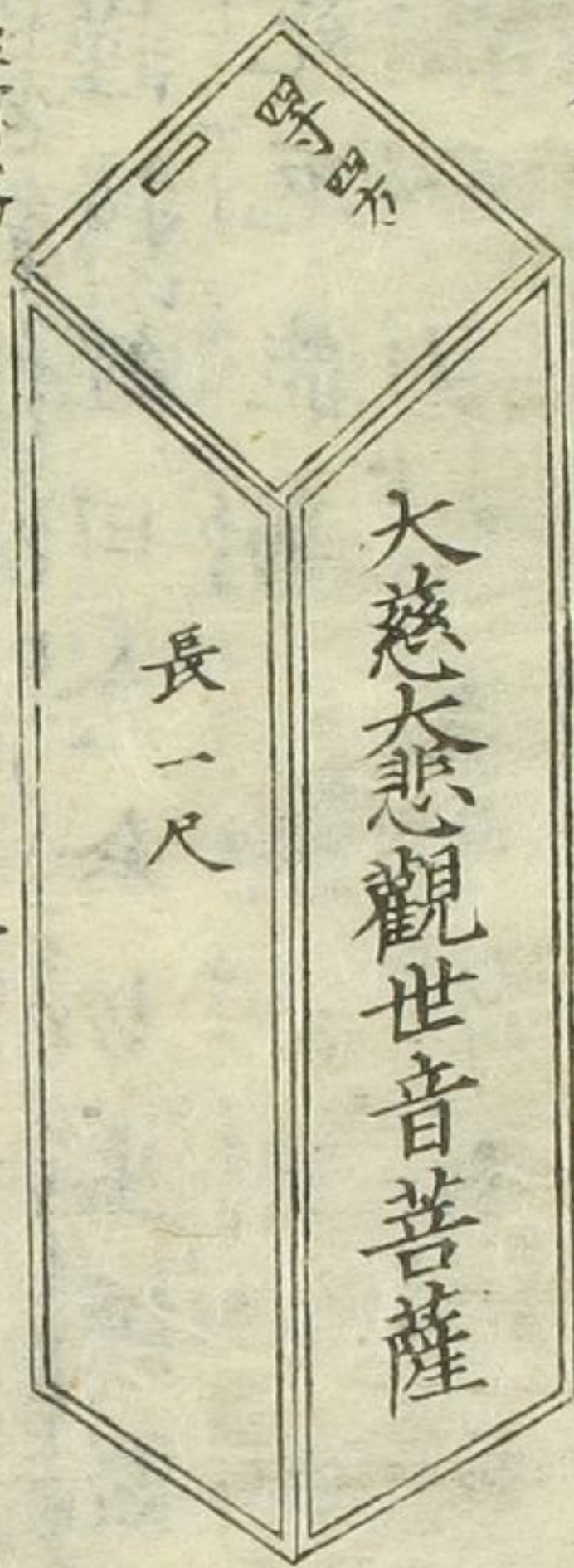


十一面觀世音大士咒
唵 囉 囉 囉 囉 囉 囉 囉 囉 囉 囉 囉 囉
唵 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩 嚩

願文
謹按經曰念念勿生疑觀世音淨聖於苦惱
死厄能為作依怙具一切功德慈眼視衆生
福聚海無量是故應頂禮夫觀世音菩薩者
娑婆世界施無畏也利生越三世菩薩誓願
勝十方薩埵由之南瞻部州大日本國某
州某鄉某申某今月今日欲頌而以決其言嫌疑
仍而一心奉請觀音薩埵三十三身化現等
仰冀降臨道場與百頌之中其一而吉則吉
凶則凶決猶豫垂證明

奉送文 一心奉送上所請觀世音菩薩三十二身化
現等各還歸本座向後奉請不捨慈悲降臨
影向道場

御闡箱之圖



籤不谷時

甲申日ハ 巳午申酉の時
丙丁日ハ 寅卯亥子の時
戊己日ハ 丑卯辰巳の時
庚辛日ハ 子丑巳午の時
壬癸日ハ 丑未辰戌の時

第一大吉



七寶浮圖塔 高峯頂上安 衆人皆仰望 莫作等閑看

七寶の塔は七種の宝珠で造られ、高峯の頂上に安置され、衆人皆仰望して、莫作等閑看すべし。此の塔は、觀世音菩薩の智慧の光を象徴し、衆生の心を導くための重要な存在である。

増補御覽鈔 第一大吉の御覽は、大慈大悲の觀世音菩薩の御闡箱の御覽である。御闡箱の御覽は、大慈大悲の觀世音菩薩の御闡箱の御覽である。御闡箱の御覽は、大慈大悲の觀世音菩薩の御闡箱の御覽である。

第四吉



累有興雲志

君恩祿味封

若逢侯手印

好事始恣恣

累有興雲志
累有興雲志

君恩祿味封
君恩祿味封

若逢侯手印
若逢侯手印

好事始恣恣
好事始恣恣

判曰... 吉... 人事... 財帛... 官職... 婚姻... 疾病... 家道... 凶... 第五

第五凶



家道味能昌

危危保禍殃

暗雲侵月桂

佳人下炷香

家道味能昌
家道味能昌

危危保禍殃
危危保禍殃

暗雲侵月桂
暗雲侵月桂

佳人下炷香
佳人下炷香

第五凶... 人事... 財帛... 官職... 婚姻... 疾病... 家道... 凶... 第五

吉八第



勿頭中尾見
文華頰得理
木乃自偶然
當遇非常喜

この世にて下の世はあれはさういふ事を
この世で下の子はあれはさういふ事を
この世で下の子はあれはさういふ事を
この世で下の子はあれはさういふ事を
この世で下の子はあれはさういふ事を
この世で下の子はあれはさういふ事を
この世で下の子はあれはさういふ事を
この世で下の子はあれはさういふ事を

▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を

吉九大第



有名頰得遇
三望下期遷
貴人來指處
華菓應時鮮

かきあがり人あはれいふ事ありあべり
の世にて下の子はあれはさういふ事を
の世にて下の子はあれはさういふ事を
の世にて下の子はあれはさういふ事を
の世にて下の子はあれはさういふ事を
の世にて下の子はあれはさういふ事を
の世にて下の子はあれはさういふ事を
の世にて下の子はあれはさういふ事を

▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を
▲此の世にて下の子はあれはさういふ事を

第十大吉



舊用多成破

新更始見財

政求雲外望

枯木遇春開

Handwritten commentary for the first four hexagrams, explaining their meanings and implications.

Main body of handwritten commentary on the right page, continuing the analysis of the hexagrams.

第十一大吉



有祿興家業

文華達帝都

雲中衆好箭

兼得貴人扶

Handwritten commentary for the last four hexagrams, explaining their meanings and implications.

Main body of handwritten commentary on the left page, continuing the analysis of the hexagrams.

第二十大吉



揚柳遇春時

殘華發舊枝

重重霜雪裡

黃金色更輝

やあざのちりあめてりゆきまもせいでく
人の男のまもあはれがはゆきまもせいでく

あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

▲はるばるにあふく...
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

第三十大吉



手把大陽輝

東君發舊枝

稼苗方欲秀

猶更上雲岐

あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

▲はるばるにあふく...
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく
▲あやしくもあはれちりあめてりゆきまもせいでく

第六十吉



欲政重成望

あきらめんがうきうきうにまうりごとと
せんとなんぞうきう

前途喜亦寧

ゆきまきうきうきうきうきうきうきう
かきん

貴人相助處

わうんのきうきうきうきうきうきうきう
りてきうきう

祿馬照前程

くせんぬちきうきうきうきうきうきう
きうきう

▲はてさて... (Main text for the 60th hexagram, discussing various aspects of fortune and misfortune.)

第七十凶



怪異防憂惱

あきまうきうきうきうきうきうきう
きうきう

人宅見分離

あきまうきうきうきうきうきうきう
きうきう

惜花還値雨

あきまうきうきうきうきうきうきう
きうきう

杯酒惹閑非

あきまうきうきうきうきうきうきう
きうきう

▲はてさて... (Main text for the 70th hexagram, discussing various aspects of fortune and misfortune.)

第十八吉



離暗出明時

麻衣變綠衣

舊憂終是退

遇祿應交輝

月夜の光を待つては明き時なり
麻衣を脱ぎて緑衣を穿ては憂は退き
舊の憂は終に退き
遇ふ祿は輝き交はるるなり

第十八吉の事
此の吉は、人々の心願を成す事あり。月夜に待てば明き時、麻衣を脱ぎて緑衣を穿てば、憂は退き、舊の憂は終に退き、遇ふ祿は輝き交はるるなり。此の吉は、人々の心願を成す事あり。月夜に待てば明き時、麻衣を脱ぎて緑衣を穿てば、憂は退き、舊の憂は終に退き、遇ふ祿は輝き交はるるなり。此の吉は、人々の心願を成す事あり。月夜に待てば明き時、麻衣を脱ぎて緑衣を穿てば、憂は退き、舊の憂は終に退き、遇ふ祿は輝き交はるるなり。

第十九末小吉



家道生荆棘

兒孫防兇威

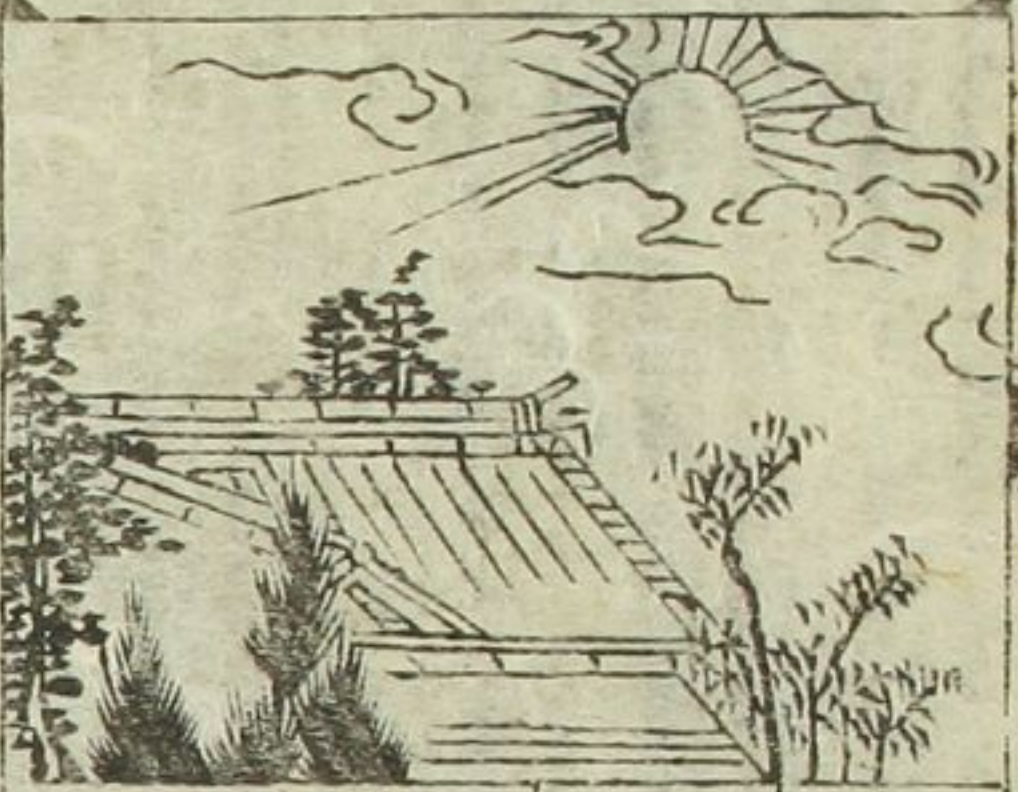
香前祈福厚

方得免分離

家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。

第十九末小吉の事
此の吉は、人々の心願を成す事あり。家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。家道生荆棘、兒孫防兇威、香前祈福厚、方得免分離。此の吉は、人々の心願を成す事あり。

第十二吉

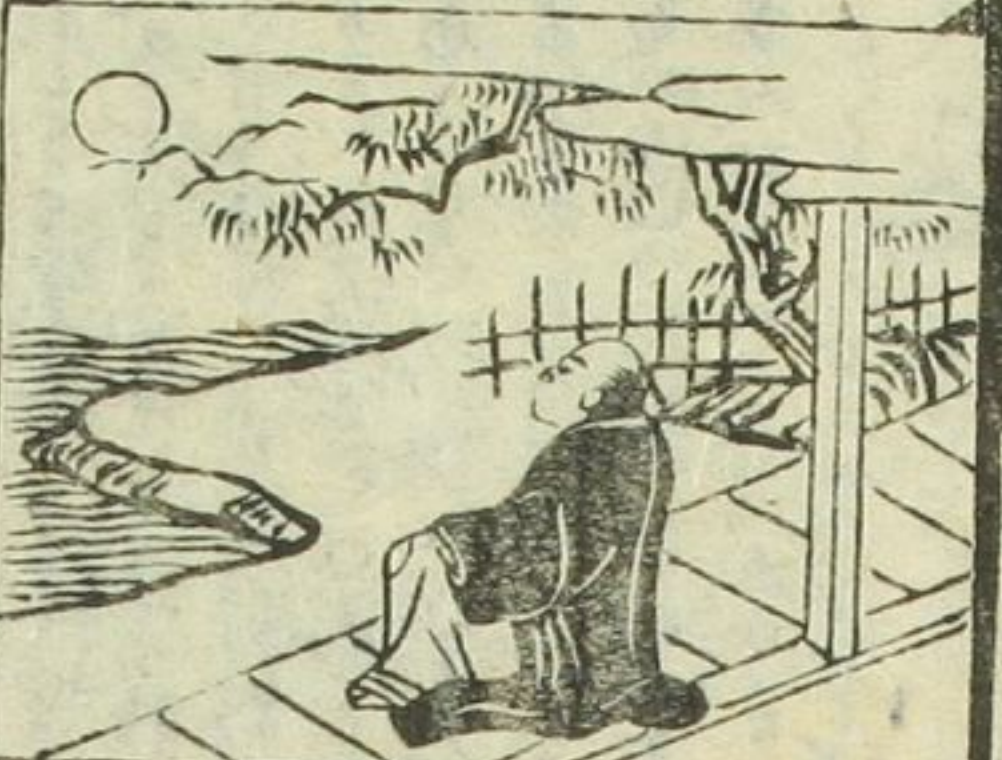


月出漸分明
家財每興
何言先有滿
更變立功名

月出漸分明
家財每興
何言先有滿
更變立功名

此吉の事は、人々の心算を以て、月出の如く、漸く光明を以て、家財の興隆を以て、何事も先ず満ち、更なる功立の事あり。此吉の事は、人々の心算を以て、月出の如く、漸く光明を以て、家財の興隆を以て、何事も先ず満ち、更なる功立の事あり。

第十二吉



洗出經年否
光華得再清
所求終吉利
重日照前程

洗出經年否
光華得再清
所求終吉利
重日照前程

此吉の事は、人々の心算を以て、洗出の如く、経年の垢を以て、光華の得るを以て、所求の事終つて吉利、重なる日照の如く、前程の光明あり。此吉の事は、人々の心算を以て、洗出の如く、経年の垢を以て、光華の得るを以て、所求の事終つて吉利、重なる日照の如く、前程の光明あり。

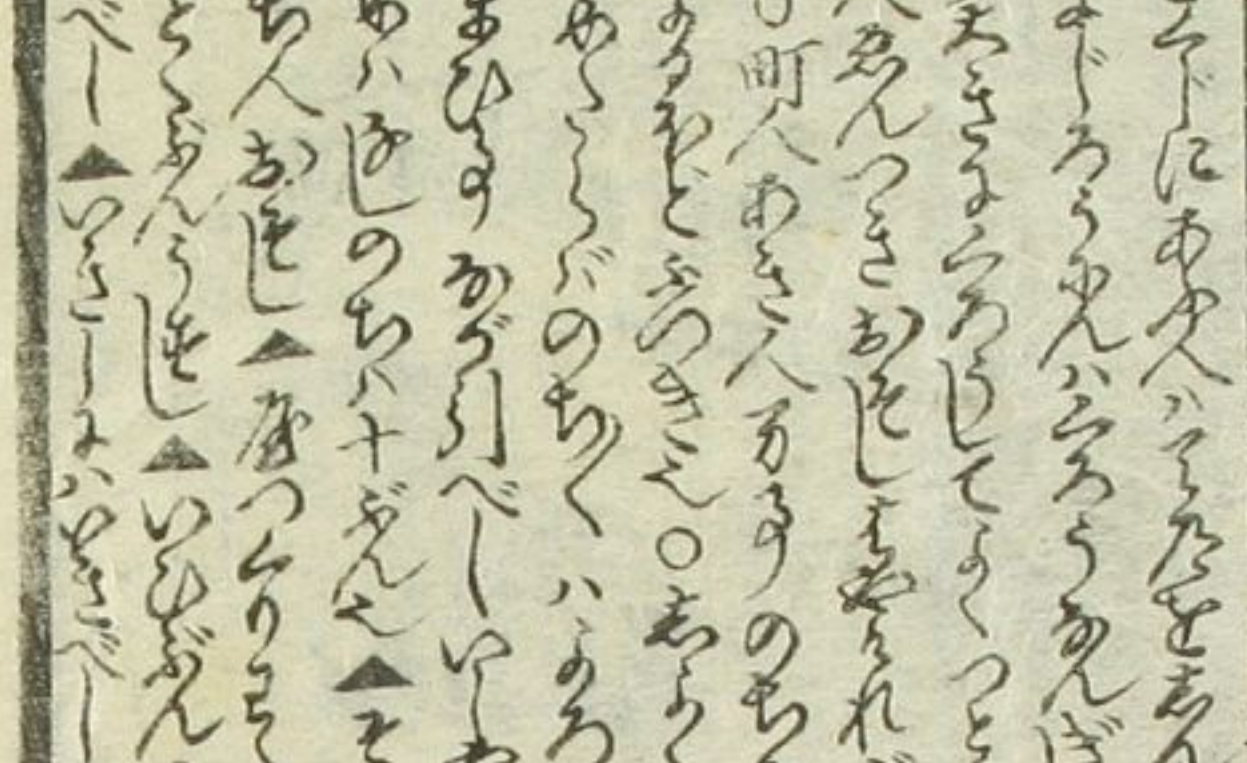
第二十二吉



漸^{ぜん}漸^{ぜん}濃^{のう}雲^{うん}散^{さん}
 看^{かん}看^{かん}月^{げつ}再^{さい}明^{めい}
 逢^あ春^{はる}華^{はな}草^{くさ}秀^{ひら}
 雨^{あめ}過^{すぎ}竹^{たけ}重^{おも}青^{あお}

あめはあまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる

第二十三吉



紅^{こう}雲^{うん}隨^{ずい}步^ぶ起^{おこ}
 一^{いつ}箭^{せん}中^{ちゆう}青^{せい}霄^{せう}
 鹿^か行^{かう}千^{せん}里^り遠^{えん}
 争^{そう}知^ち去^き路^ろ遥^{えう}

あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる

第二十三小吉



紅^{こう}雲^{うん}隨^{ずい}步^ぶ起^{おこ}
 一^{いつ}箭^{せん}中^{ちゆう}青^{せい}霄^{せう}
 鹿^か行^{かう}千^{せん}里^り遠^{えん}
 争^{そう}知^ち去^き路^ろ遥^{えう}

あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる

あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる
 あまはるの月もあまはる

吉六十二第



將軍有異聲

進兵萬里程

爭知臨敵處

道勝却虛名

Handwritten commentary for Hexagram 62 (Shi), discussing military strategy and the dangers of war.

Main body of handwritten commentary for Hexagram 62, providing detailed interpretations of the hexagram's lines and overall meaning.

吉七十二第



望祿應重山

花紅喜悅顏

舉頭看故月

漸出黑雲間

Handwritten commentary for Hexagram 72 (Jian), explaining the symbolism of the hexagram and its implications.

Main body of handwritten commentary for Hexagram 72, providing detailed interpretations and practical advice.

曾南川撰

第二十八凶末吉



意速無船渡
波深必誤身
切須回舊路
方可逃災巡

意速無船渡
波深必誤身
切須回舊路
方可逃災巡

判曰... 凶末吉... 意速無船渡... 波深必誤身... 切須回舊路... 方可逃災巡... 判曰... 凶末吉... 意速無船渡... 波深必誤身... 切須回舊路... 方可逃災巡...

第二十九吉



憂慙漸消融
求名得再通
寶財臨祿位
當遇主人公

憂慙漸消融
求名得再通
寶財臨祿位
當遇主人公

判曰... 第二十九吉... 憂慙漸消融... 求名得再通... 寶財臨祿位... 當遇主人公... 判曰... 第二十九吉... 憂慙漸消融... 求名得再通... 寶財臨祿位... 當遇主人公...

第三十凶



仙鶴立高枝

防他暗箭虧

井畔剛刀利

戸内更防危

せんくはせうたのてんたあなう
とくはうたのてんたあなう
とくはうたのてんたあなう

ちたのつたてんとれんたまのりあせんと
してゆいわれよやハサとこわせんよ
りあせんとれんたまのりあせんと

ふせぎけいせんたまのりあせんと
わたりとれんたまのりあせんと

これのてんたあなう
あせんとれんたまのりあせんと

△げんごにわやん天をいのりえんをえんとは。判曰ふにわやん
△ふんあり神仏をこのまの長ろくえんありのねむりのきてもふんあり。あつたへん
△とり入るひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう

第三十一吉



鯢鯨味變時

且守碧潭洪

風雲興巨浪

息過天涯

こんげのてんたあなう
あつたのてんたあなう
あつたのてんたあなう

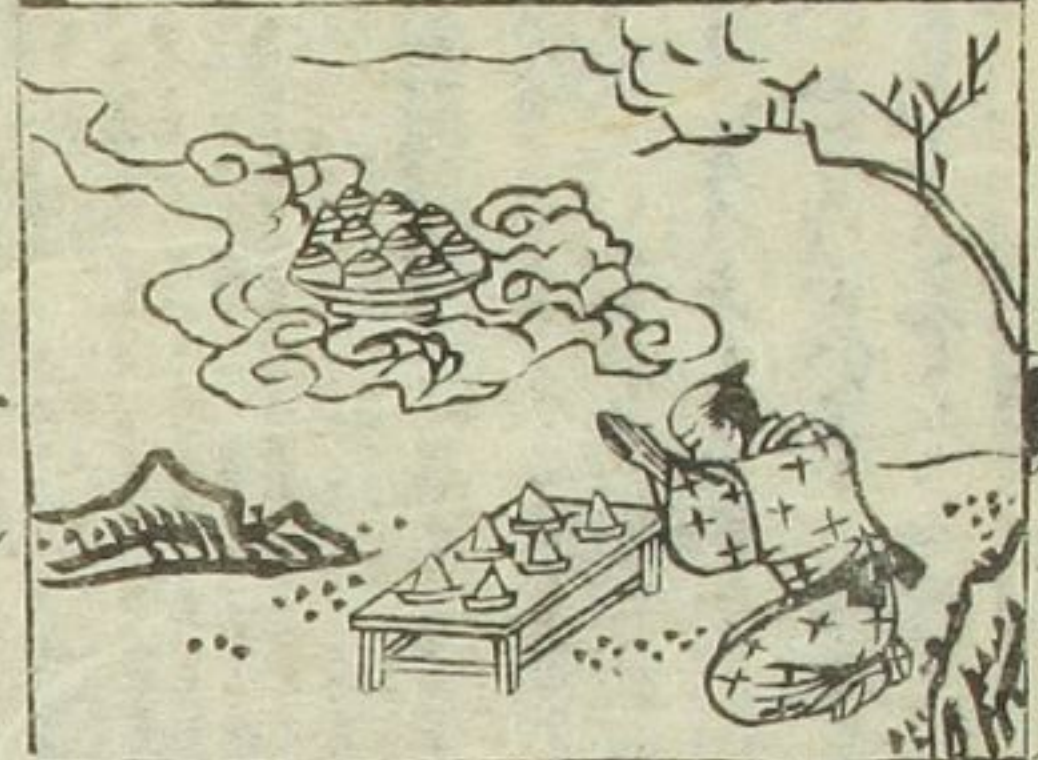
あつたのてんたあなう
あつたのてんたあなう
あつたのてんたあなう

あつたのてんたあなう
あつたのてんたあなう
あつたのてんたあなう

あつたのてんたあなう
あつたのてんたあなう
あつたのてんたあなう

△げんごにわやん天をいのりえんをえんとは。判曰ふにわやん
△ふんあり神仏をこのまの長ろくえんありのねむりのきてもふんあり。あつたへん
△とり入るひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう
△ひせうろくをわやんあつたのてんたあなうとてんたあなうのてんたあなう

吉四十三第



臘木春將至
芳菲喜再新
鯤鯨興巨浪
舉鈞祿為真

臘木春將至
芳菲喜再新
鯤鯨興巨浪
舉鈞祿為真

此吉にあらん人... 判曰... 吉四十三第... 臘木春將至... 芳菲喜再新... 鯤鯨興巨浪... 舉鈞祿為真... 此吉にあらん人... 判曰... 吉四十三第... 臘木春將至... 芳菲喜再新... 鯤鯨興巨浪... 舉鈞祿為真...

吉五十三第



財鹿須乘箭
胡僧引路歸
遇道同仙籍
光華映晚暉

財鹿須乘箭
胡僧引路歸
遇道同仙籍
光華映晚暉

此吉にあらん人... 判曰... 吉五十三第... 財鹿須乘箭... 胡僧引路歸... 遇道同仙籍... 光華映晚暉... 此吉にあらん人... 判曰... 吉五十三第... 財鹿須乘箭... 胡僧引路歸... 遇道同仙籍... 光華映晚暉...

第三十六吉



先損後有益

如月之剥蝕

玉兔待重生

光華當滿屋

先損後有益... 如月之剥蝕... 玉兔待重生... 光華當滿屋

Main vertical text on the right page, starting with '判曰' and containing various interpretations of the hexagram.

第三十七末吉



陰翳未能通

求名亦未逢

幸然須有變

一箭中雙鴻

陰翳未能通... 求名亦未逢... 幸然須有變... 一箭中雙鴻

Main vertical text on the left page, starting with '判曰' and containing various interpretations of the hexagram.



第十四吉

中正方成道

ちうせいとうまうせいひんじきせうじやうせうじ

姦邪恐惹怒

かんじやうおそひかりかみ

壺中盛妙藥

つがのちゆうまうせうじやうせうじ

非久去煩煎

ひきうきふらんせん

Main text block on the right page, containing various columns of vertical Japanese text.



第十四末吉

有物不周旋

あつものふしうせん

預防損半邊

りゆうぼうそんぺんぺん

家郷煙火裡

かきやうえんかほり

祈福始安然

かふくしじあんぜん

Main text block on the left page, continuing the vertical Japanese text.

吉二十四第



桂花春將到

雲天好進程

貴人相遇處

暗月再分明

あはれあはれとて... かくはかくとて... かくはかくとて...

吉三十四第



月桂將相満

追鹿映山溪

貴人乘遠箭

好事始相佳

あはれあはれとて... かくはかくとて... かくはかくとて...

あはれあはれとて... かくはかくとて... かくはかくとて...

第四十四吉



盤中黒白子

丁 著要 先機

天 龍降 甘澤

洗 出 舊 根 基

盤中黒白子 せんちゅうにろくわいしこうごい... 丁 著要 先機 せいようしやうせんき... 天 龍降 甘澤 てんりゆうこうんざく... 洗 出 舊 根 基 せんしゅしゆこんき...

第四十五吉



有意興高顯

禄馬引前程

得遇雲中箭

芝蘭滿路生

有意興高顯 こがらうひらのいせんとあはしうわの... 禄馬引前程 ろくまひきりぜんげ... 得遇雲中箭 とくごううんちゅうせん... 芝蘭滿路生 しばらんまんろせい...

第四十五吉の解 第四十五吉の解... 有意興高顯... 禄馬引前程... 得遇雲中箭... 芝蘭滿路生...

第四十六凶



雷發震天昏
 佳人獨掩門
 交加文書上
 無事也遭巡

この凶は、雷が天を打つて天が暗くなる。これは、天の怒り、神の威光を示す。佳人は、この威光に怯んで門を閉ざす。交加文書上は、文書が交錯して上へ行く。無事也遭巡は、無事でも巡り遭ふ。

此の凶は、天の威光に怯んで門を閉ざす。交加文書上は、文書が交錯して上へ行く。無事也遭巡は、無事でも巡り遭ふ。此の凶は、天の威光に怯んで門を閉ざす。交加文書上は、文書が交錯して上へ行く。無事也遭巡は、無事でも巡り遭ふ。

第四十七吉



更望身前立
 何期在晚成
 若過重山去
 財祿自相迎

更望身前立は、更に望んで身前に立す。何期在晚成は、いつか晩成する。若過重山去は、若くして重山を去る。財祿自相迎は、財祿が自ら相迎へる。

此の吉は、山を越えて進む。何期在晚成は、いつか晩成する。若くして重山を去る。財祿が自ら相迎へる。此の吉は、山を越えて進む。何期在晚成は、いつか晩成する。若くして重山を去る。財祿が自ら相迎へる。

吉末八十四第



見祿隔前谿

勞心休更迷

一朝逢好渡

鸞鳳入雲來

さいわうちきゆうをのぞきまへ... たいせきにぞくわびびくし... ちかちかしてうれれすくのちかちか... よびわくくもをわやよと... まのひとやめくまのなをまのひと... よれたりよおあふりあんと... らんわうはまのまのひと... とわぬまはまのひと

△... 判曰... 八月十... 正好中秋月... 蟾蜍皎潔間... 暗雲知何處... 故故兩相攀... 吉末八十四第... 見祿隔前谿... 勞心休更迷... 一朝逢好渡... 鸞鳳入雲來

吉九十四第



正好中秋月

蟾蜍皎潔間

暗雲知何處

故故兩相攀

つぎに... 八月十... 正好中秋月... 蟾蜍皎潔間... 暗雲知何處... 故故兩相攀

△... 判曰... 八月十... 正好中秋月... 蟾蜍皎潔間... 暗雲知何處... 故故兩相攀... 吉九十四第

第五十二凶



有愆頰惹訟

兼有事交加

門裏防人厄

災臨莫嘆嗟

判曰... 災臨莫嘆嗟... 門裏防人厄... 兼有事交加... 有愆頰惹訟... 此段包含对凶兆的解释及判词。

第五十三吉



久困漸能安

雲書降印權

殘花終結實

時亨祿自遷

久困漸能安... 雲書降印權... 殘花終結實... 時亨祿自遷... 此段包含对吉兆的解释及判词。

第五十四凶



身同意不同
月蝕暗長空
輪雖常在手
魚水味相逢

この身は同じくても心は異なる。月が蝕み暗く長空に輝く。輪は常に手の中にあり、魚と水は味を共にする。

此の凶は、人々の間に争いや不和が生ずることを示す。月が蝕まれるように、人の心も暗くなる。空は長空に輝くが、それは虚しい光である。輪は常に手の中にあり、魚と水は味を共にするが、それは苦しい味である。

第五十五吉



雲散月重明
天書得誌誠
雖然多阻滯
花發再重榮

雲が散ると月が重なるように、天の書を得て誠を得る。雖然多阻滯、花發再重榮。困難は多々あるが、花は再び繁栄する。

此の吉は、人々の間に和や協力が生ずることを示す。雲が散ると月が重なるように、天の書を得て誠を得る。雖然多々あるが、花は再び繁栄する。困難は多々あるが、花は再び繁栄する。

北野御書
 増補御書
 三十九

第五十六吉末



生涯喜復憂
 味老先白頭
 勞心千百度
 方遇貴人留

一この世は喜と憂の境なし
 生涯の憂は喜の根なり
 味老先白頭
 勞心千百度
 方遇貴人留

▲此の世は喜と憂の境なし
 生涯の憂は喜の根なり
 味老先白頭
 勞心千百度
 方遇貴人留

第五十七吉末



欲渡長江闊
 波深未自傳
 前津逢浪靜
 重整釣鰲鉤

欲渡長江闊
 波深未自傳
 前津逢浪靜
 重整釣鰲鉤

▲此の世は喜と憂の境なし
 生涯の憂は喜の根なり
 味老先白頭
 勞心千百度
 方遇貴人留

増補御書
 三十九

第五十八凶



有徑江海隔
車行峻嶺危
亦防多進退
猶恐小人虧

有徑江海隔
人より海の隔る如く、人の心も隔る如し。車行峻嶺危、車を峻嶺に走らすは危し。亦防多進退、亦防多進退、亦防多進退。猶恐小人虧、猶恐小人虧、猶恐小人虧。

判曰、此の凶、人々の心隔る如く、人の心も隔る如し。車行峻嶺危、車を峻嶺に走らすは危し。亦防多進退、亦防多進退、亦防多進退。猶恐小人虧、猶恐小人虧、猶恐小人虧。

第五十九凶



去住心無定
行藏亦未寧
一輪清皎潔
却被黑雲暝

去住心無定
行藏亦未寧
一輪清皎潔
却被黑雲暝

判曰、此の凶、人々の心隔る如く、人の心も隔る如し。車行峻嶺危、車を峻嶺に走らすは危し。亦防多進退、亦防多進退、亦防多進退。猶恐小人虧、猶恐小人虧、猶恐小人虧。

第六十二大吉



災賊時時退

名顯四方揚

政故重乘祿

昇高福自昌

災賊時時退... 名顯四方揚... 政故重乘祿... 昇高福自昌...

第三十六凶



何故生荆棘

佳人意漸疎

久困重輪下

黃金未出渠

何故生荆棘... 佳人意漸疎... 久困重輪下... 黃金未出渠...

第六十二大吉

Main text block on the left page, containing various entries and commentary.

第六十六 凶



水滯少波濤

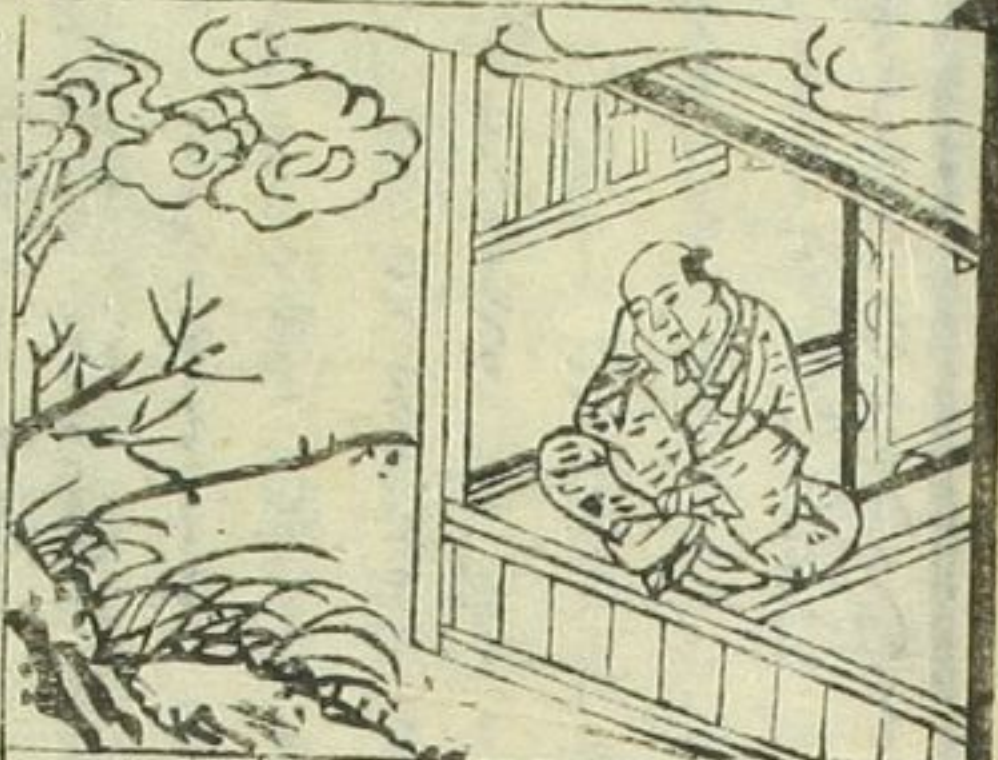
飛鴻落羽毛

重憂心緒亂

閑支惹風騷

此卦下兌上乾。兌為澤，乾為天。澤在天，水洊洊，故曰水滯。少波濤，言水之無聲也。飛鴻落羽毛，鴻雁飛過，羽毛墜落，喻事之不成也。重憂心緒亂，言憂慮重重，心緒不寧也。閑支惹風騷，言閑居之時，支離之風，騷擾人心也。此卦之象，為澤在天，水洊洊，故曰水滯。少波濤，言水之無聲也。飛鴻落羽毛，鴻雁飛過，羽毛墜落，喻事之不成也。重憂心緒亂，言憂慮重重，心緒不寧也。閑支惹風騷，言閑居之時，支離之風，騷擾人心也。

第六十七 凶



枯木生枝

獨步上雲歧

豈知身未穩

獨自惹閑非

此卦下兌上乾。兌為澤，乾為天。澤在天，水洊洊，故曰水滯。少波濤，言水之無聲也。飛鴻落羽毛，鴻雁飛過，羽毛墜落，喻事之不成也。重憂心緒亂，言憂慮重重，心緒不寧也。閑支惹風騷，言閑居之時，支離之風，騷擾人心也。此卦之象，為澤在天，水洊洊，故曰水滯。少波濤，言水之無聲也。飛鴻落羽毛，鴻雁飛過，羽毛墜落，喻事之不成也。重憂心緒亂，言憂慮重重，心緒不寧也。閑支惹風騷，言閑居之時，支離之風，騷擾人心也。

第六十八吉



異夢生英傑

前來事可疑

芳菲春日暖

依舊發殘枝

判曰... 異夢生英傑... 芳菲春日暖... 依舊發殘枝... 判曰... 異夢生英傑... 芳菲春日暖... 依舊發殘枝...

第六十九凶



明月暗雲浮

花紅一半枯

惹事傷心處

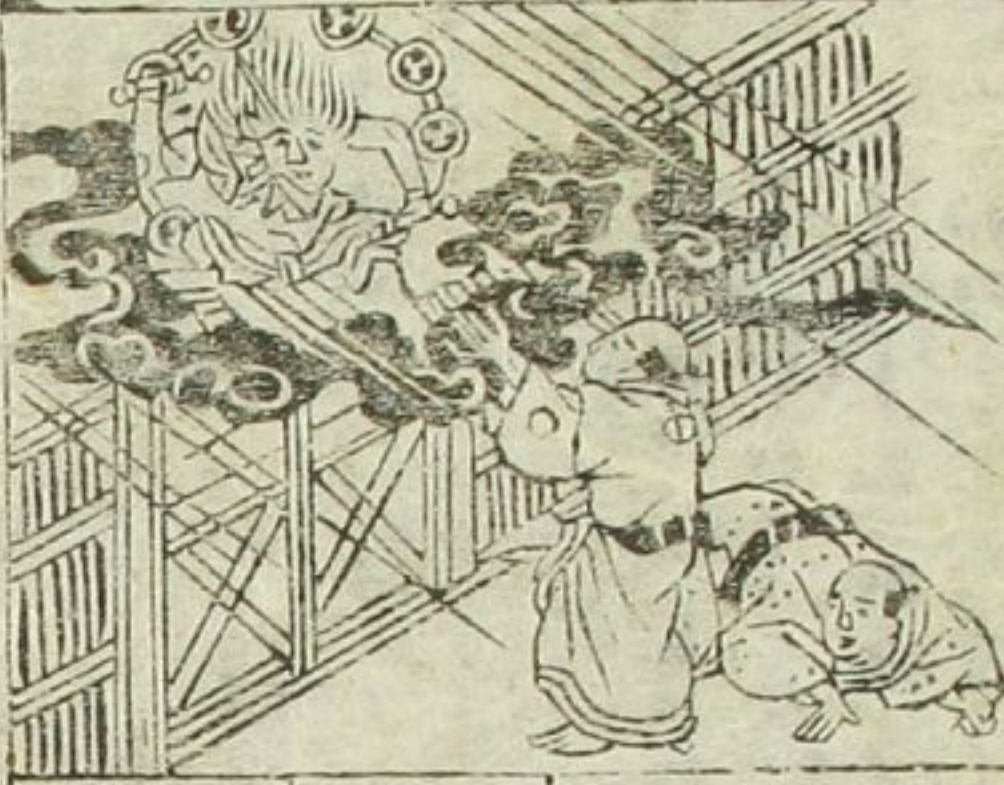
行舟莫遠圖

判曰... 明月暗雲浮... 花紅一半枯... 惹事傷心處... 行舟莫遠圖... 判曰... 明月暗雲浮... 花紅一半枯... 惹事傷心處... 行舟莫遠圖...

判曰... 明月暗雲浮... 花紅一半枯... 惹事傷心處... 行舟莫遠圖... 判曰... 明月暗雲浮... 花紅一半枯... 惹事傷心處... 行舟莫遠圖...

判曰... 明月暗雲浮... 花紅一半枯... 惹事傷心處... 行舟莫遠圖...

第七十凶

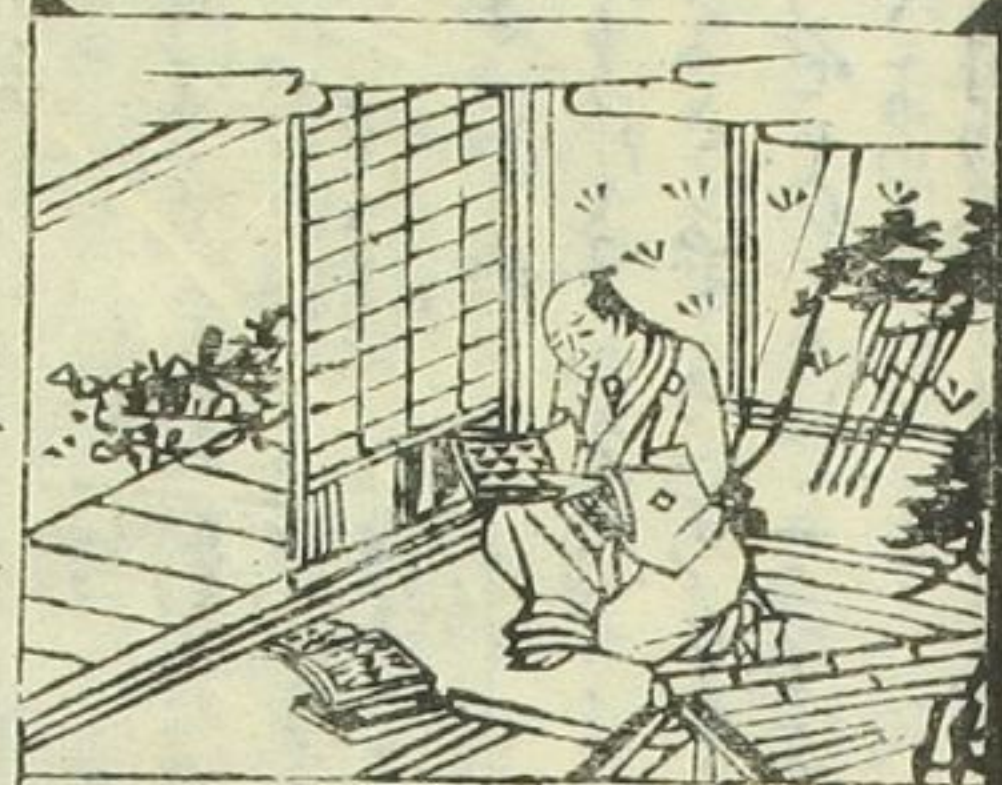


雷發庭前州
炎火向天飛
一心來趨祿
爭奈掩朱扉

雷の音を庭の前から聞く。炎の火が天に飛ぶ。一心に祿を求め趨く。争うに奈むに朱の扉を掩む。

此の凶は、人々の争ひを以て起る。争ひの甚しき所、火の如く天に飛ぶ。一心に利を求め、争ひを以て、朱の扉を掩む。此の凶は、争ひの甚しき所、火の如く天に飛ぶ。一心に利を求め、争ひを以て、朱の扉を掩む。

第七十一凶



道業誅成時
何期兩不宜
事煩心緒亂
翻作徘徊思

道業の誅成する時。何期も兩に不宜。事煩心緒亂。翻作徘徊思。

此の凶は、道業の誅成する時、何期も兩に不宜。事煩心緒亂。翻作徘徊思。此の凶は、道業の誅成する時、何期も兩に不宜。事煩心緒亂。翻作徘徊思。

増補御覽金

三十五

第十七吉

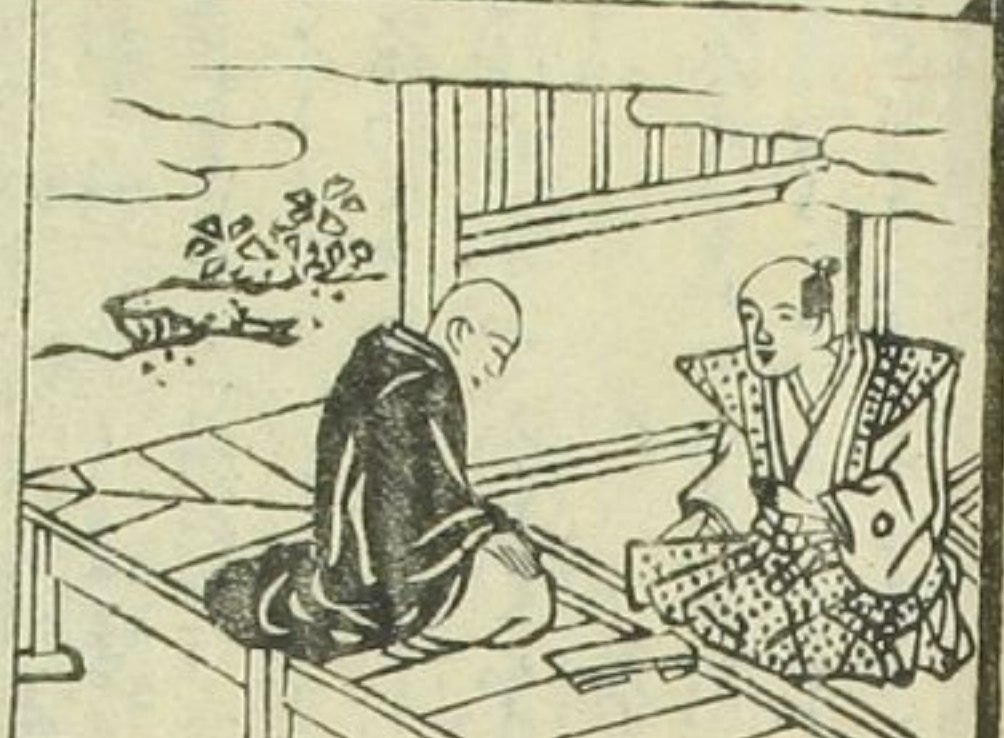


戸内防重危
 華菓見分枝
 嚴霜純過後
 方可始相宜

判曰。此は。秋の。気候。なり。戸内。防重。危。の。事。也。華。菓。見。分。枝。の。事。也。嚴。霜。純。過。後。の。事。也。可。以。始。相。宜。の。事。也。此。は。吉。の。事。也。

判曰。此は。秋の。気候。なり。戸内。防重。危。の。事。也。華。菓。見。分。枝。の。事。也。嚴。霜。純。過。後。の。事。也。可。以。始。相。宜。の。事。也。此。は。吉。の。事。也。

第十七吉



久暗漸分明
 登江绿水澄
 芝書從遠降
 終得異人成

判曰。此は。秋の。気候。なり。久。暗。漸。分。明。の。事。也。登。江。緑。水。澄。の。事。也。芝。書。從。遠。降。の。事。也。終。得。異。人。成。の。事。也。此。は。吉。の。事。也。

判曰。此は。秋の。気候。なり。久。暗。漸。分。明。の。事。也。登。江。緑。水。澄。の。事。也。芝。書。從。遠。降。の。事。也。終。得。異。人。成。の。事。也。此。は。吉。の。事。也。

第 四 十 七 凶



蛇虎正文羅

牛生二尾多

交歲方成慶

上下不能和

乃此もとも人... 牛の字も... 交の字も... 上下... 和...

Vertical text columns on the right page, including the title '第 四 十 七 凶' and various explanatory notes.

第 十 七 五 凶



孤舟欲過岸

浪急渡人空

女人立流水

望月意情濃

Vertical text columns on the left side of the right page, including the title '第 十 七 五 凶' and various explanatory notes.

Vertical text columns on the left page, including the title '第 十 七 五 凶' and various explanatory notes.

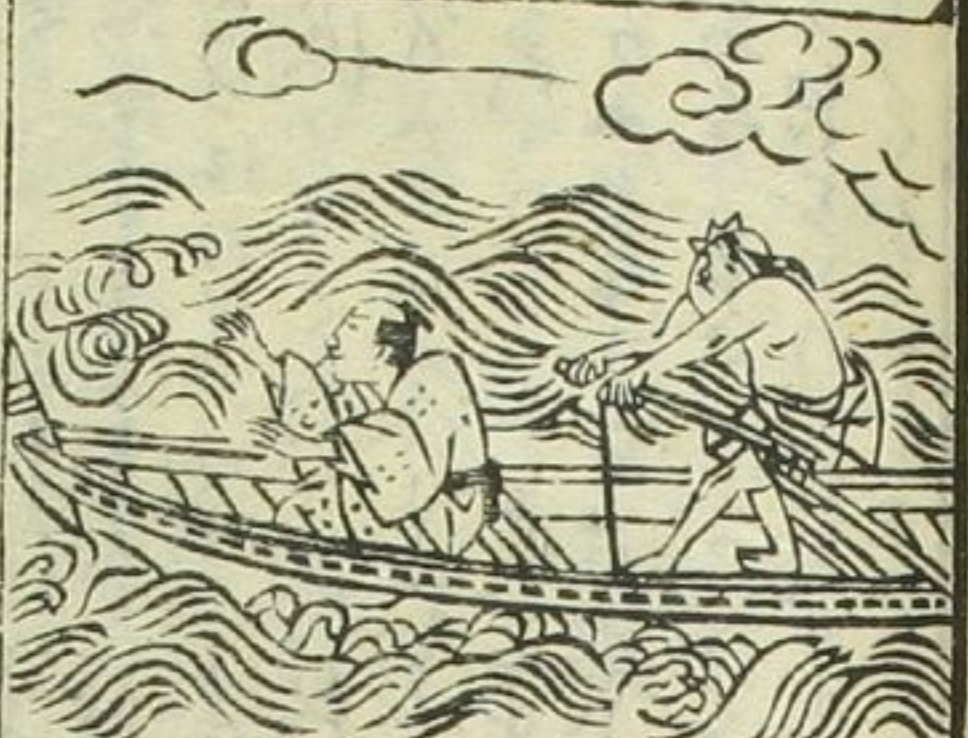
第七十六吉



富貴天之祐
何須苦用心
前程應顯跡
久用得高臨

富貴は天の祐に任せて
何事も苦心を要せず
前途の光景は自然に
長久の高位を得ん

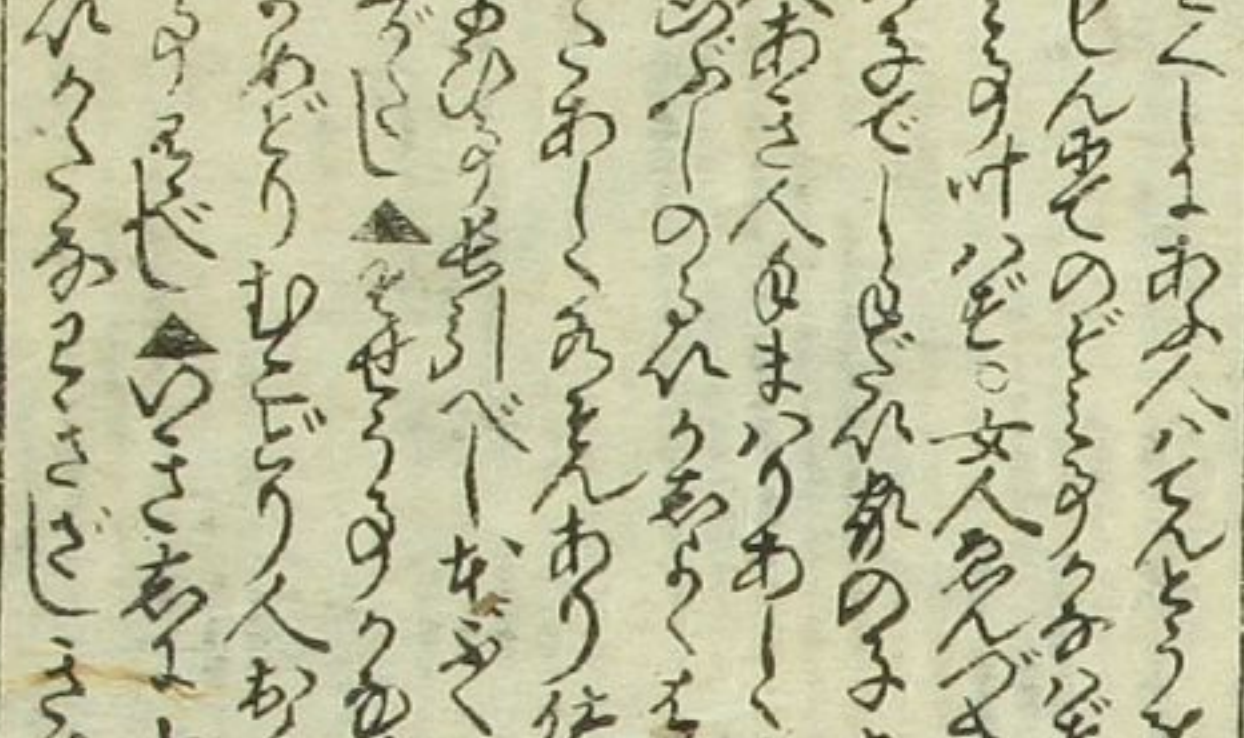
第七十七凶



累滯未能鮒
求名莫遠圖
登舟波浪急
咫尺隔天衢

累滞は進まず退かず
名を求め遠くを望む
舟に乗り波は急ぐ
咫尺の間も天の隔

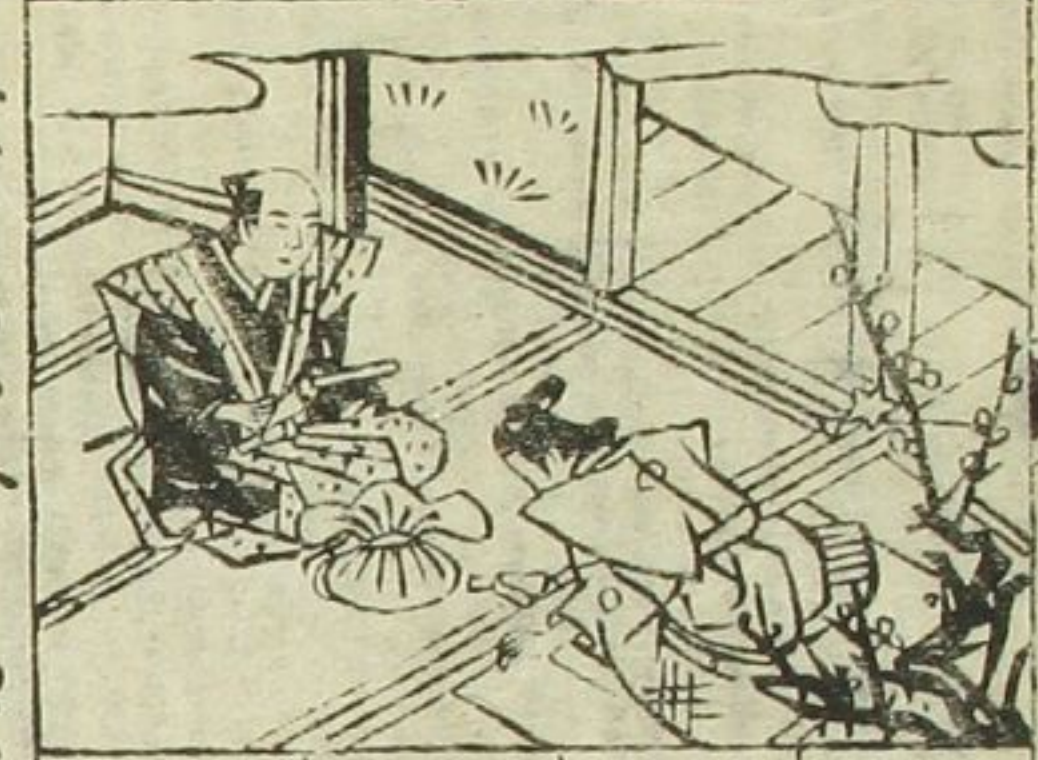
第七十八吉



曾補印圖少

曾補印圖少
補印の図は少く
補印の図は少く
補印の図は少く

第七十八大吉



但存正公道

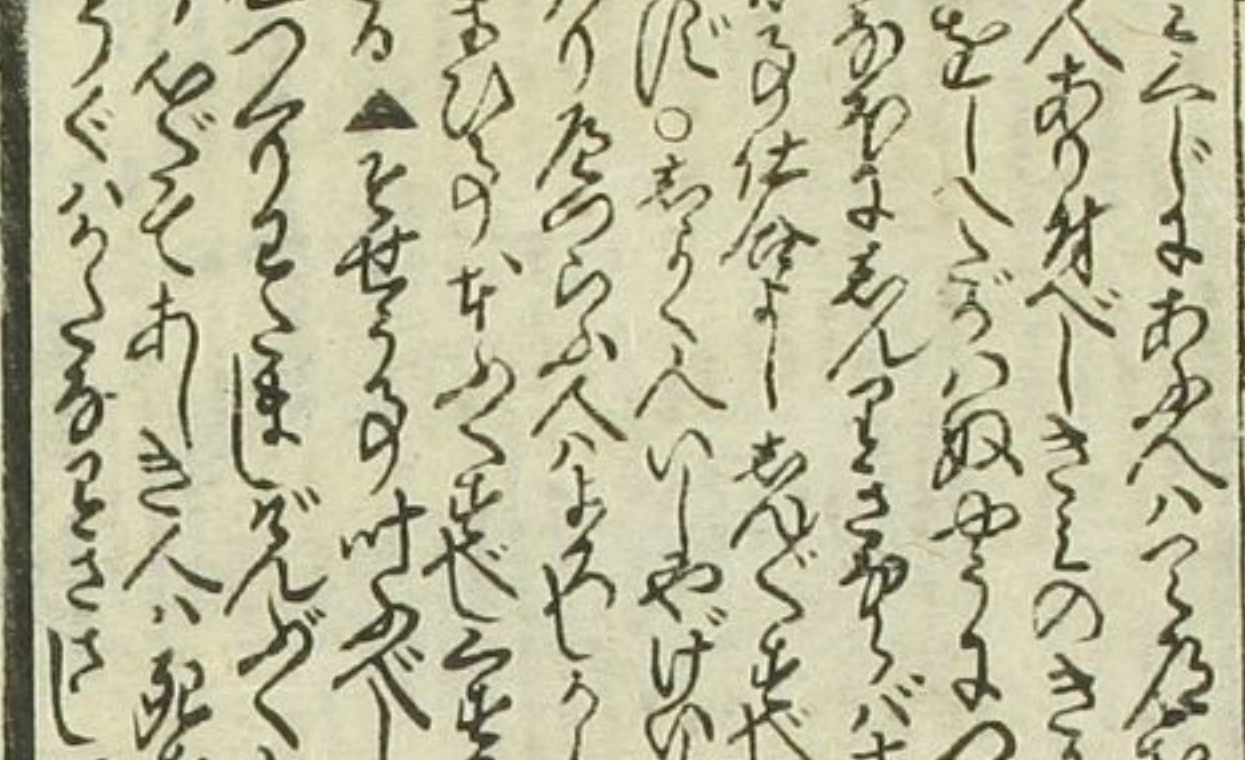
何愁理去忠

松栢蒼蒼翠

前山祿馬重

おれやけのさしき...
まどこそうんげん...
まろくかののり...
まのまよふれ...

第七十九大吉



殘月未還光

樽前非語傷

戸中有人厄

祈福保青陽

あけの月ハひりりも...
さけはあひて...
あはれきま...
きねんて...

第七十九大吉



いふやあ少ハ...
あんんんんん...
さうあう...
あはれきま...
あはれきま...
あはれきま...

曾補御覽抄

四十一

第十八大吉



深山多養道
忠正帝王宣
鳳遂鸞飛去
昇高過九天

深山多養道
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに

第十八大吉

いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに

第十八末吉

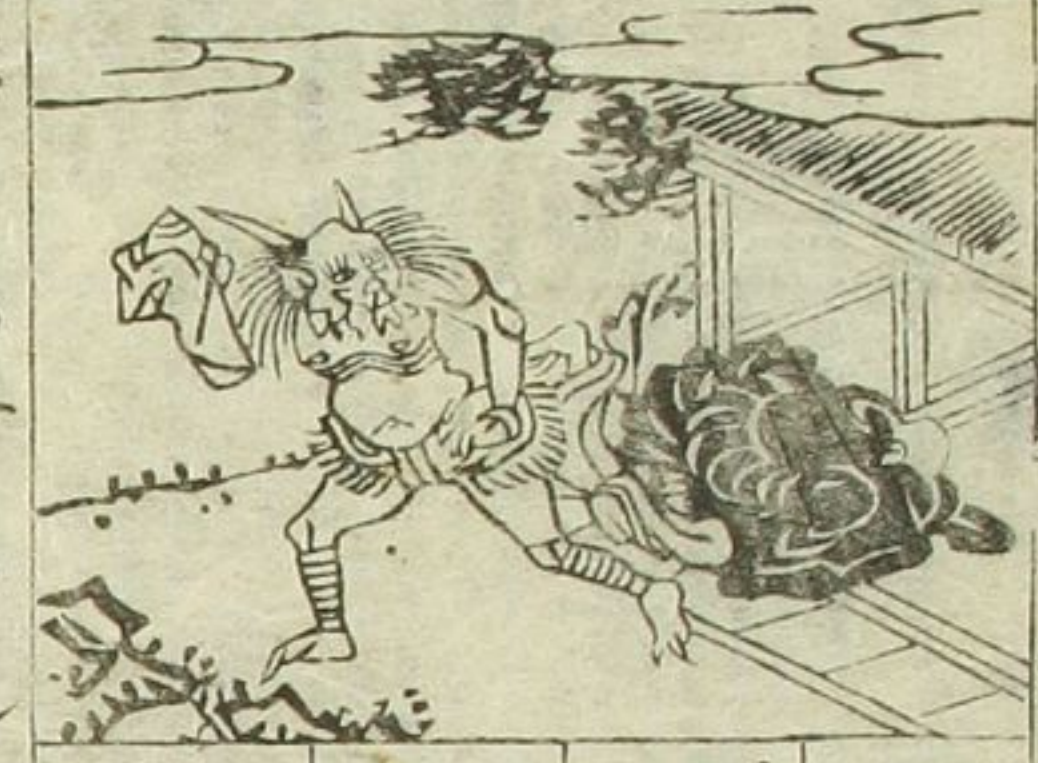


道合顔成合
先憂事更多
所求財寶盛
更變得中和

道合顔成合
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに

いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに
いふまゝに道は道とていふまゝに

第 四 十 八 凶



否極方無泰
 華開值晚秋
 人情不調備
 財寶鬼來偷

否極方無泰
 おろくは否極なりつゝ一もあはれなき事
 ありしをいへばやまはるる事なり
 華開値晚秋
 花は開くも秋は遅くはるる事なり
 人情不調備
 人の心も調はずる事なり
 財寶鬼來偷
 財宝は鬼に盗まれる事なり

此の凶は、人々の心も調はずる事なり。財宝は鬼に盗まれる事なり。否極方無泰、おろくは否極なりつゝ一もあはれなき事ありしをいへばやまはるる事なり。華開値晚秋、花は開くも秋は遅くはるる事なり。人情不調備、人の心も調はずる事なり。財寶鬼來偷、財宝は鬼に盗まれる事なり。

第 十 八 五 大 吉



望用何愁晚
 求名漸得寧
 雲梯終有望
 歸路入蓬瀛

望用何愁晚
 のぞく事は何も愁はるる事なり
 求名漸得寧
 名を求め漸く得る事なり
 雲梯終有望
 雲梯は終に有望なる事なり
 歸路入蓬瀛
 歸路は蓬瀛に入る事なり

此の吉は、望用何愁晚、のぞく事は何も愁はるる事なり。求名漸得寧、名を求め漸く得る事なり。雲梯終有望、雲梯は終に有望なる事なり。歸路入蓬瀛、歸路は蓬瀛に入る事なり。

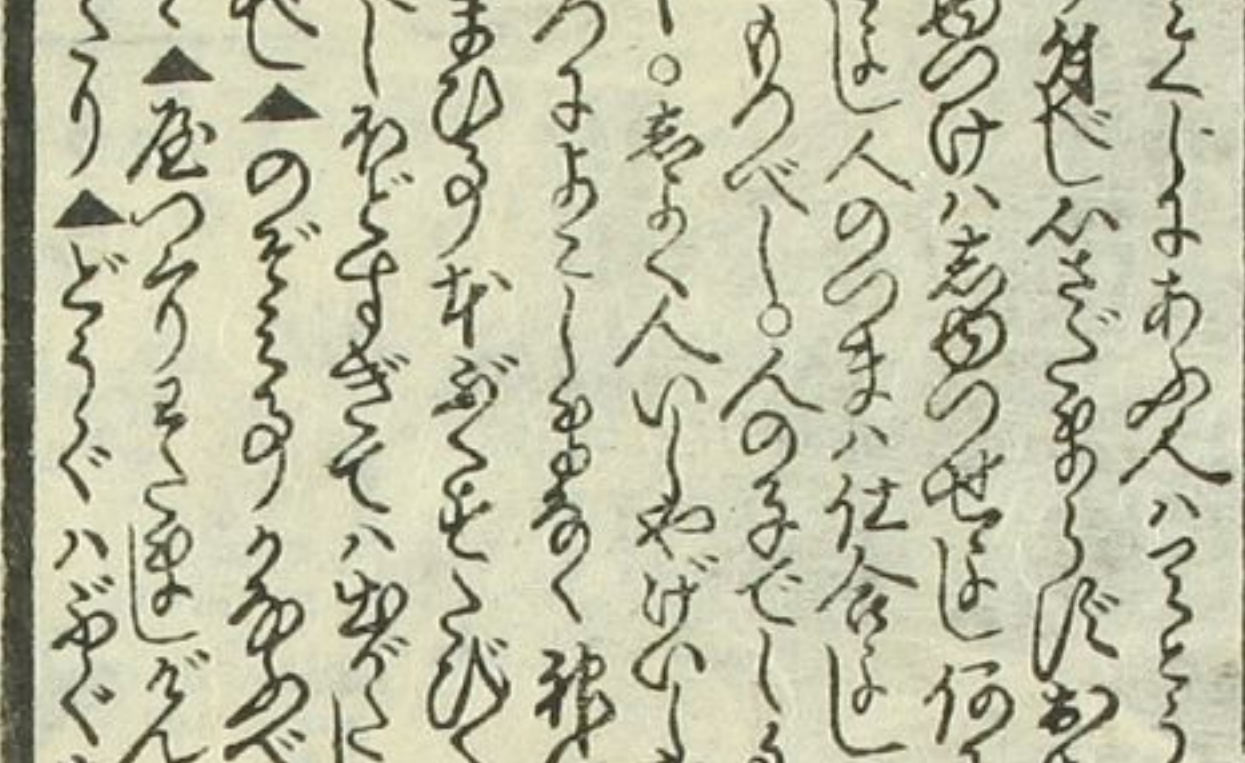
第九十二吉



自幼常為旅	逢春駿馬驕	前程宜進步	得箭降青霄
-------	-------	-------	-------

人の身の内へあはれどもさきまらば
おちつてゐるなり
さきまのさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
何れものさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
天より青の雲が降りてきて
あつてむすはたす

第九十三吉



有魚臨旱地	踊躍入波濤	隔中須有望	先且慮塵勞
-------	-------	-------	-------

まづ魚のあつて旱地のさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
さきまのさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
さきまのさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
さきまのさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす

第九十三吉



有魚臨旱地	踊躍入波濤	隔中須有望	先且慮塵勞
-------	-------	-------	-------

まづ魚のあつて旱地のさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
さきまのさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
さきまのさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす
さきまのさきまをさるるごとく人も仕合
あつてむすはたす

第九十二吉の解説
自幼常為旅 人の身の内へあはれどもさきまらばおちつてゐるなり
逢春駿馬驕 さきまのさきまをさるるごとく人も仕合あつてむすはたす
前程宜進步 何れものさきまをさるるごとく人も仕合あつてむすはたす
得箭降青霄 天より青の雲が降りてきてあつてむすはたす

第九十三吉の解説
有魚臨旱地 まづ魚のあつて旱地のさきまをさるるごとく人も仕合あつてむすはたす
踊躍入波濤 さきまのさきまをさるるごとく人も仕合あつてむすはたす
隔中須有望 さきまのさきまをさるるごとく人も仕合あつてむすはたす
先且慮塵勞 さきまのさきまをさるるごとく人も仕合あつてむすはたす

第九十四半吉



事忌樽前語
 人防小輩交
 幸七陰公祐
 方免事敲爻

事忌樽前語
 事忌樽前語とは、事忌を樽前に置くこと。事忌は、事忌の事をいふ。樽前は、樽前の事をいふ。語は、語の事をいふ。人防小輩交、人防小輩交とは、人防小輩交の事をいふ。幸七陰公祐、幸七陰公祐とは、幸七陰公祐の事をいふ。方免事敲爻、方免事敲爻とは、方免事敲爻の事をいふ。

第九十五半吉

志氣勤修業
 禄位未造逢
 若聞金鶏語
 衆船得便風

志氣勤修業
 志氣勤修業とは、志氣勤修業の事をいふ。禄位未造逢、禄位未造逢とは、禄位未造逢の事をいふ。若聞金鶏語、若聞金鶏語とは、若聞金鶏語の事をいふ。衆船得便風、衆船得便風とは、衆船得便風の事をいふ。

第九十五吉



志氣勤修業
 禄位未造逢
 若聞金鶏語
 衆船得便風

志氣勤修業
 志氣勤修業とは、志氣勤修業の事をいふ。禄位未造逢、禄位未造逢とは、禄位未造逢の事をいふ。若聞金鶏語、若聞金鶏語とは、若聞金鶏語の事をいふ。衆船得便風、衆船得便風とは、衆船得便風の事をいふ。

第九十五吉... 判曰... 衆船得便風... 衆船得便風とは、衆船得便風の事をいふ。

第九十六大吉



鷄逐鳳同飛
高林整羽儀
棹舟頰濟岸
寶貨滿船歸

このちからをいふ人もあはれん下人の
あつたひきまひのひきあつたひきまひ
たつたひきまひのひきあつたひきまひ
たつたひきまひのひきあつたひきまひ
たつたひきまひのひきあつたひきまひ
たつたひきまひのひきあつたひきまひ
たつたひきまひのひきあつたひきまひ
たつたひきまひのひきあつたひきまひ

はた下よあはれん下人のあつたひきまひのひきあつたひきまひ
あつたひきまひのひきあつたひきまひのひきあつたひきまひ
あつたひきまひのひきあつたひきまひのひきあつたひきまひ
あつたひきまひのひきあつたひきまひのひきあつたひきまひ
あつたひきまひのひきあつたひきまひのひきあつたひきまひ
あつたひきまひのひきあつたひきまひのひきあつたひきまひ
あつたひきまひのひきあつたひきまひのひきあつたひきまひ
あつたひきまひのひきあつたひきまひのひきあつたひきまひ

第十九十七凶



霧罟重樓屋
佳人水上行
白雲歸去路
不見月波澄

霧のちかて重なる楼屋の如く
佳人の水上をゆく
白雲の去る路
不見の月波の澄

第九十七凶の事...
霧のちかて重なる楼屋の如く
佳人の水上をゆく
白雲の去る路
不見の月波の澄

第九十八凶



欲理新絲乱

閑愁足是非

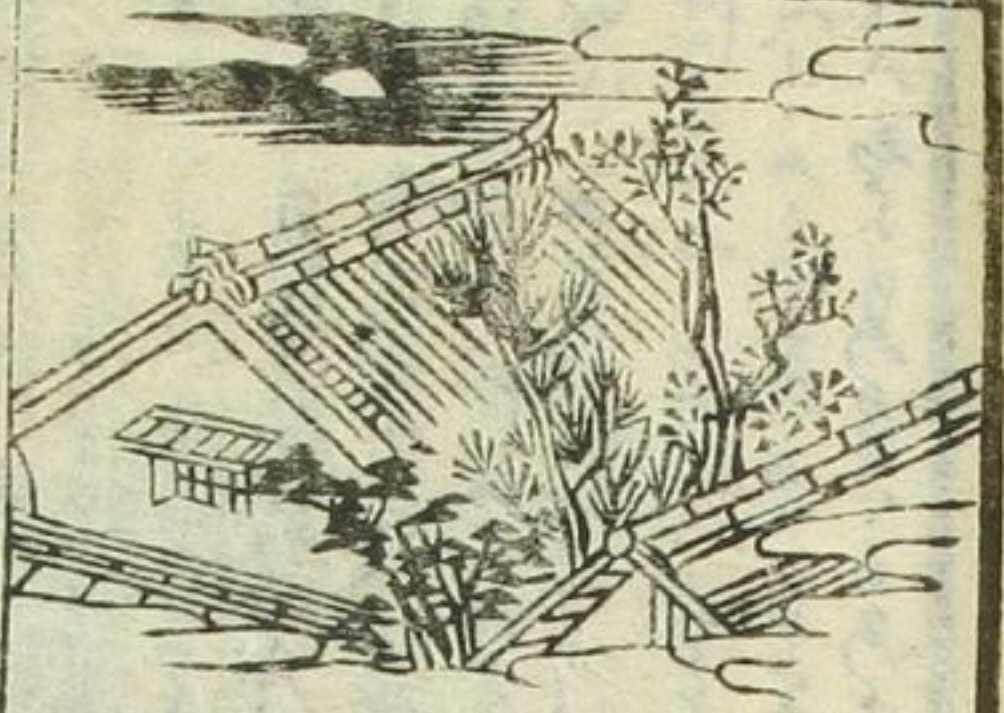
只困羅網裡

相見幾人悲

欲理新絲乱... 閑愁足是非... 只困羅網裡... 相見幾人悲... 此の巻れとまらへんとまらへんくも... ぬも人もおひのむすおれしとの... ちり子産くまひまあつとむひまは... 更くひらてひ

第九十八凶... 此の巻れとまらへんとまらへんくも... ぬも人もおひのむすおれしとの... ちり子産くまひまあつとむひまは... 更くひらてひ

第九十九大吉



紅日當門照

暗月再重圓

遇珎須得寶

頗有稱必遄

紅日當門照... 暗月再重圓... 遇珎須得寶... 頗有稱必遄... 此の巻れとまらへんとまらへんくも...

第九十九大吉... 此の巻れとまらへんとまらへんくも... ぬも人もおひのむすおれしとの... ちり子産くまひまあつとむひまは... 更くひらてひ

大橋宗桂先生著
将棋妙手 全三冊

いふに宗桂の指方初学教書古の爲小指をれ
尚時より初学教書に於て第一の秘鑑
をれは初学此方よりあつては見るべき

大橋宗英先生著
将棋啓蒙正義 全三冊

宗桂の指法を臨機夜更にまゝに熟読す時
初級より自在にて妙手あつては見るべき

大橋宗英先生著
将棋奇戦 全三冊

宗桂先生は指尚時有名の上を在指力を
奇巧と稱しは後撰中初学教書古の爲小指
をれは四方の好る求むるものありあれば
余に命ぜりまよ上本より流布するものありぬ

大橋宗英先生選
将棋粹金 全三冊

先生をりぬ尚時宗英の上を在臨機夜更乃
妙をりぬる百番を撰りてむとまをれ 是を
もとまゝ初学教書古の故をりぬ

伊藤宗看先生選
将棋絶妙 全三冊

いふに尚時三家宗英ははりの有者は上を在
肝鏡と云はれ秘術をりぬる百番を撰り
ありぬる是をりぬるははりの有者上を在

大橋宗桂先生選
将棋明玉 全三冊

尚時宗元宗匠方及素人の上を在玉をりぬる
らり機變妙用の百番を集りぬるははりの有者
ははりの有者ははりの有者ははりの有者

大橋英俊先生輯
将棋軌轍 全三冊

近本の有者指方百番を撰りて大橋英俊の
手合をのせし時の位位を撰りてははりの有者
をりぬるははりの有者

伊藤看壽先生著
将棋圖巧 全三冊

世に聞きぬるははりの有者ははりの有者
ははりの有者ははりの有者ははりの有者
ははりの有者ははりの有者

三代目大橋宗與先生著
将棋養真圖式 全三冊

いふに宗與の指方百番を著りてははりの有者
ありてははりの有者ははりの有者
ありてははりの有者

桑原君仲先生著
将棋玉圖 全三冊

先生指方妙をりぬるははりの有者ははりの有者
ははりの有者ははりの有者ははりの有者
ははりの有者ははりの有者

将棊玉手箱 全一冊 寛政の世に名を馳せし子の指ふるを集む

将棊童觀鈔 全一冊 二枚落より本手と玉手の妙ありあを傳へたる

将棊袖珍手段 極く初心の人の初級の定法を説く一冊の書也

西碁長谷川先生總理
流峯千葉先生編集

算法新書 全五卷

合卷大冊 一卷

八算と相場別差を盈朒求積開平方
勾股弦容術天元點竈文商變商整數
逆索成教互減通約互約逆約言約自約
諸約約約零約約一約一約管適盡變教
拓差架術樹圓理角術及難題小玉
術毎小記条を以て極形術を附録古今解
法を詳説して算術中の秘を詳ふの凡

西碁長谷川先生創製
鳳堂秋田先生編集

算法極形指南 全三卷

西碁長谷川先生開
梅坪平内先生編

算法變形指南 全一冊

極形法則より起り一個の極形變化七數件の
象を成し種々の極形合還系より不同の組合件
を以て理を説き難問二百余条の起原を以て
前余案の六形を詳義捷徑の良法なり
局形の変形を明辨して極形を探索極形を
施す妙法古今未登の端あり初学の士は
書によらずんばあるを知らず

碁溪長谷川先生開
藤樹山本先生編

算法容題短合表 全一冊

容題の極形を求る小方より用ゆる適等
都合二百餘條を挙ぐ解中運算の勞を省く
一助と爲初學者に以ては凡そ海をゆくが
如くすこやう小極形を以て小なる也

碁溪長谷川先生開
每湖内田先生編

算法求積通考 全五冊

方圓截積求積及難形の積を求むる紀条
を詳録し表件を以て解中運算の
勞を省け用法を詳ふり極形を以て安んず
しむけ一冊で求積術の底を以て凡そ

西碓先生関 鶴山先生編
算法約術類聚 全二冊

遍約互約逐約約自約増約扶約零約
箭管水の影を設る法約より解義精樹
小なるまで詳小のせう約術の全五巻と云

藤樹山先生 同編
成淵大木先生
算法通解 全十卷

西碓老師の算生山千歳平内田栢久間本谷
の法生及法中の法子影考の題術を設け
老師の訂正と法と蔵と蓋のり約術中
滿の竟不蝕亡破失を思ひ秋田先生を題術及
解義と老師小毛て是と世に公おれ余余答の
変化と所解義捷徑自然老師の字風と具を

朽木軒村田先生編
算法側圓詳解 全冊

今側圓の内外に方圓横斜木の雜形と文へ
答る約術を輯録と題側圓全圖の還示
一と約術を素む約術の雜形も還示の
矩不惑して屈伸とるは巻中より屈伸
変化の程を詳し約解義と示也

藤樹小樽先生 同編
鳳堂秋田先生
點竄手引艸 全五卷
自初編至五編各三卷

世の上本は書殺幸ありといふも解義者略
あり初學通究一雜ゆ多平傾字を用て
樹路を市一算法ハ傍小注を加初學此引
と云て合題安化替古本あり

藤樹小樽先生 同編
鳳堂秋田先生
大全塵劫記 全冊

八算及相場別差不盈朋詳刻用平用三方
句收法空樹截樹及天元點竄樹木の解
義と入小示のさ深切あり初學此引と
いふもまほ安化替古本あり

梅坪平内先生著
算法直術正解 全二冊

法算宗裁る約術を採めて解義を詳し
其解中適當の組合を用ひとまは約術を
とと考あり実小五乘を帯さるの良法之
初學の士は書ふよりずんはあるをうべ

朽木軒村田先生編
算法地方指南 全二冊

田畑及列石名盛物成を凶捨り合仕根と地方
算法の問答を裁と解義を詳し古今粗根大
目と論一五那の度校と探り山谷の言低と計
法と示は去にあり約術見分足の約術なる

鳳岳先生編

拾機算法 全五卷

此書は密窟術を述べ上本せしむるに法約
術管管整教拓差架術圓弧背木の真
術との書中漢文ありて術文のしき
を要とす

鄰白石先生編
旭岡池田先生訂

社盟算譜 全二卷

指圓周背の管術を初め是の階を
圓象球の求積と指圓木の妙也奇術を
撰ひ社中より廟堂小掲を編集し附録
の球面三斜積欠の文様本を載す

湛岩井先生問
杉籬山日先生著

算法圓理冰釋 全二冊

球面三斜積穿去積文周木の解義及世の
はさぬきとのと林を解す詳し初学の士とい
増納術蘊奥にむんと近

鄰白石先生問
陶木村先生著

温知算叢 全一冊

鄰先生の傳にあり陶先生自の
因縁の求積と指圓木の奇是妙術を集
録する所あり

鄰白石先生問
湛岩井先生著

算法雜俎 全一冊

鄰先生の社中自ら一奇の術を榮一廟堂
小納むるを集むるに法算を改訂し其を
階材として學といたし迷ふ教をゆるむる

觀齋内田先生編
龍涯堀先生訂

古今算鑑 全二冊

和漢教の由来を挙げ本編は門生子
の廟堂小掲られ指圓周背の真術及
圓球異象の求積と定哲雜俎と号せし
問の奇の書術を記す

觀齋内田先生監定
權山志野先生編輯

豁機算法 全三冊

古より算術の出不止といふも奇妙奥なる
ありては其の術をのぼるに法を撰
點窟のあり自ら算法の妙をほる

池田先生監定
橋本先生著述

算法點窟初学抄 全一冊

此書は初学の算術と記す
紀法するに及ばず算尺と記す
ありて點窟及比例木の程を自注し
のそみても自在なるはるべき

城山竹内先生関
神山林先生著
算法湖璉

全二冊

此書中と初学解、易き形術を出一、未と
関夫子の真秘を伝はる、極致極微術、約術、の
法、初園記の妙用委く、一冊中、以、合、さる、と、さる、

南谷市川先生編
合類算法

全二冊

因、極、小、弧、を、穿、去、ま、る、の、内、面、積、を、も、め、て、算、弄
出、小、機、も、難、形、の、求、積、と、方、陣、及、答、形、の、約、術
を、集、成、と、初、学、解、と、い、い、と、い、書、を、由、り、以、
ゆる、と、記、す、と、さ、る、小、教、理、成、極、に、か、る、と、さ、る、

豫山創持先生著
逸齋野村先生訂
探蹟算法

全三冊

世、小、形、術、の、本、不、之、と、い、い、も、演、股、圓、理、の、奇、蹟
妙、術、に、て、い、い、出、小、る、と、い、い、の、か、一、依、て、い、い、小
か、つ、ま、ま、せ、い、れ、圓、理、の、後、妙、を、發、明、の、か、る、一
い、書、の、法、問、と、さ、る、小、機、編、と、世、小、形、算、の、
法、と、初、め、て、考、ひ、い、い、思、考、を、傳、へ、傳、へ、る、の、其、理、を
會、は、さ、る、の、一、助、も、あ、る、と、い、い、且、進、加、方、陣、の
道、術、の、古、今、未、著、る、奇、術、を、り、

著隻御粥先生編
算法淺問抄

全三冊

水藩川口先生著
征韓偉略

全五冊

豊、太、岡、の、朝鮮、征、伐、我、日、本、の、武、威、を、外、は、小、耀、せ、
蓋、舉、の、り、國、史、を、使、む、者、考、究、せ、ま、る、か、る、と、い、い、
漢、上、の、朝鮮、の、古、本、法、家、の、秘、冊、と、い、い、毫、の、私、を、加、へ、
年月、地理、を、推、一、事實、の、次第、功、の、実、名、を、考、証、
さ、る、朝鮮、征、伐、の、実、録、を、り、

植田孟縉編

官許
日光山志

全五冊

當、所、山、の、勝、地、終、糸、を、り、と、い、い、及、り、法、陣、の、仙、談
莊、嚴、を、受、け、る、と、い、い、世、も、小、知、る、と、い、い、考、究、せ、
金、殿、玉、堂、と、い、い、を、考、究、せ、る、者、か、り、今、は、い、い、
凡、俗、の、行、去、る、死、輪、の、山、崎、に、お、ま、て、少、も、機、を、り、
樓、閣、も、居、な、る、と、い、い、山、水、も、映、り、と、い、い、
又、これ、に、密、画、を、加、て、法、山、幽、谷、の、佳、景、を、に、お、ま、り、
か、る、漢、大、も、る、雲、山、の、異、本、雲、草、苑、禽、の、
か、き、も、多、う、と、い、い、を、考、究、せ、る、者、か、り、
詳、多、く、考、究、せ、る、者、か、り、安、く、御、も、私、を、加、へ、る、と、い、い、
清、苦、齋、と、い、い、山、の、実、景、を、拍、物、に、お、ま、り、
の、秋、物、に、お、ま、り、と、い、い、官、許、を、歴、て、こ、
上、本、尺、太、平、に、史、録、を、り、お、ま、り、と、い、い、

前北齋画狂老人画

和漢陰陽傳 全一冊

大和清茂は人種として最優なり空也増天命を
惡く思ひしうぬ室をば或は人ともなす即ち身成
多は是陰徳の報なりて奉り天の是命を以て病昭
ありし能はとも初未日出く成初一色を以て病昭
あれ初く初を初せせまほき書なり

右同画

繪本 魁 全一冊

繪本武蔵燈 同

真めてまわ初めり初めり初めり初めり初めり
より学あはれ人物為材初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
編初初学初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり

清陳簡候編集
日本高井伴寬増補

増補年中吉事鑑 全一冊

一奉十一月の日用の行支合致者といふからん成
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
助といふも初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり

天野政徳大輯

草縁集 全四冊

北村久備大編

源氏物語 系図年立 全三冊

細井貞雄大著

玉琴 全五冊

尊圓親王御真跡

明衡往來 全一冊

元三増補御籤鈔 全一冊

大師増補御籤鈔 全一冊

天野政徳大輯

草縁集 全四冊

源氏物語 系図年立 全三冊

細井貞雄大著

玉琴 全五冊

尊圓親王御真跡

明衡往來 全一冊

當時祝祭の名家三時ありひは法皇作家の長
歌短奇文詞物語より初百首と集り
いふを以て當時の風相と知り初めり
い書は源氏物語の系図年立を委し初めり
初学の人見安く物語を讀み初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり
初めり初めり初めり初めり初めり初めり初めり

千字文 大字本 全一冊

善庵先生訓點 四字經 改正大字 全一冊

菱湖先生法帖

阿房宮賦 行書 全一帖

岳陽樓記 真書 全一帖

五柳先生傳 草書 全一帖

前赤壁賦 八分 全一帖

醉翁亭記 草書 全一帖

後赤壁賦 行書 全一帖

和文章 諸體 全一帖

歸去來詞 行書 全一帖

其外追々近刻

萬壽亭正三人著 願懸重寶記全冊

凡此仙形歌をよむにそれほさききりまふあり
故に東の小名言記利生にふり奇物あるを
集め綴日英小形のひかりをたのむは(何世も
不書かまそ委しくまてくる重宝の出なり

寐小便の大奇薬 壹包代錢三百銅

此清茶といふは年々久病を患ふも大小便男女の如き此一包
を治ると奇といふ妙といふ是も老婦人に在り且利に命
治せんとすものあり 依て治すのすも小便を世に弘く海内男女
寐小便を治む者ども世に世に此茶といふは奇なり
奇妙に良方秘薬の心成生世に利ひて之病苦を治るなり

本家調合所 西宮弥兵衛

大阪心齋橋筋北交前町

河内屋喜兵衛

書林 江戸日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 中橋廣小路町 西宮彌兵衛

西宮彌兵衛

早稲田大学図書館

011488556080